

歴史的町並み整備が観光地選択に及ぼす影響 ～川越市・栃木市・香取市佐原の3都市を対象として～

Impacts of development of historical townscape on tourist destination choice in Kanto region

佐藤徹治研究室 0624154 清水健太
0624333 米内賢人

1. 研究の背景と目的

2004年の景観法施行を契機として、我が国では、各自治体の景観に対する意識が徐々に高まりつつある。歴史的町並みの保存に関する法制度としては従来から伝統的建造物群保存地区制度（1978年）が存在したが、2008年に景観法と両輪の関係にある歴史まちづくりが施行されたことで、伝建地区に指定されていなかった地域でも国の政策支援や市街地における規制が行われ、歴史的町並みの保存・整備が進められるようになった。また、2007年には、観光基本法が改正され観光立国推進基本法となり、外国人観光客の来訪促進や観光旅行の促進のための環境整備等が推進されることとなった。歴史的町並みを有する観光地についても、同法に基づく環境整備が進みつつある。このように、近年、歴史的町並みの観光誘致を行う様々な政策がとられるようになり、一般の人々の歴史的町並み景観や歴史的風土に対する意識も高まりつつある。

以上の背景より、青柳・中村¹⁾は、歴史的町並み景観を総合的に評価する「歴史的町並み指標」の提案を行い、これを説明変数とする川越市・栃木市を対象とした観光需要モデルを構築している。しかし、同モデルは観光地の選択行動や周辺観光地へのリピート行動、周遊行動等の観光行動の実態を表現したモデルとはなっていない。一方、観光地選択や観光周遊行動に関する研究としては、溝上・森杉・藤田³⁾、石見・安居⁴⁾など多くの既存研究がある。

本研究では、関東圏で歴史的町並みを有し、1996年に「小江戸サミット」を共同開催した川越市・栃木市・香取市佐原を対象とし、各観光地の歴史的町並みに加え、リピート行動等を考慮した観光地選択モデルの構築を目的とする。

2. 研究手順

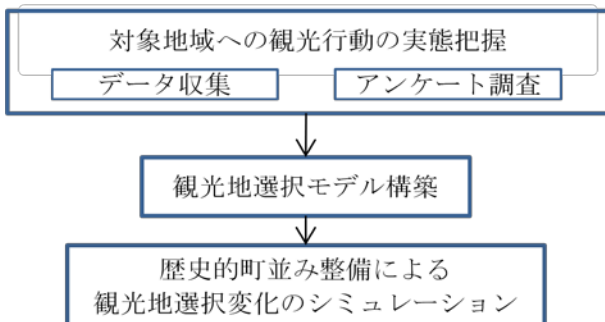


図-1 研究フロー

3. 対象地域への観光行動の実態

対象地域における2006年から2008年までの3年間の平均観光入込客数は川越市580万人、栃木市25万人、佐原35万人と川越市が他の地域を大幅に上回っている。これは、他の2地域に比べ、川越市が都内からの交通アクセスが良いためだと考えられる。

本研究では川越市、栃木市、香取市佐原の実態を把握するためアンケート調査を実施した。アンケート調査は、観光客数の多い土日に行い、各地域で実際に観光している人にアンケート調査を依頼し、その場でアンケートを記入してもらう方法をとった。有効回答数は川越市30件、栃木市28件、香取市佐原38件、計96件であった。アンケート結果より、次のような観光行動の実態が明らかとなった。

- ・3都市の歴史的町並みを訪れる人の大多数が関東圏内からの来訪者であり、なおかつ日帰り旅行者である。
- ・歴史的町並みを有する観光地を訪れる人の約8割が、過去に歴史的町並みを訪れている。
- ・川越市、佐原の観光客は対象地域以外の周遊行動をする人が大多数であるのに対し、栃木市の観光客は日光や太平山など対象地域以外も周遊行動する人が半数近くいる。

4. 観光地選択モデルの構築

(1) モデルの定式化

ある観光客が観光地を選択する要因として、一般的に対象地域までの所要時間や所要費用、対象地域の魅力度、情報量等が挙げられる。

本研究では、地域の魅力度として、青柳・中村¹⁾で定義された歴史的町並み指標を使用する。また、対象地域の情報量として、インターネットで「対象地域 歴史的町並み」と検索したときのヒット件数、TV番組で対象地域が放映された時間（2006～2008年）を採用する。さらに、アンケート回答者それぞれのリピート経験有無及び回数を説明変数として加える。(1)、(2)式に3地域選択モデルを示す。

$$P_k = \exp(V_k) / \sum_k \exp(V_k) \quad (1)$$

$$V_k = \alpha + \beta_1 GC_k + \beta_2 IH_k + \beta_3 WEB_k + \beta_4 TV_k + \beta_5 RA_k \quad (2)$$

ここで、 k は地域（川越、栃木、佐原）を表す。 V は部分効用、 GC は居住地域から対象地域までの一般化費用、 IH は歴史的町並み指数、 WEB はインターネットで検索を行ったときのヒット件数、 TV は放送時間分数、 RA は過去の歴史的町並み観光地への訪問経験の有無、及び回数を表す。

(2) パラメータ推定

パラメータ推定には、(2)式のすべてまたは、一部の説明変数を用いたモデルについて検討した。今回、符号条件をすべて満たし、かつ t 値が一定条件（5%有意）以上のものを採用した。採用されたモデルの推定結果を表-1に示す。

表-1 パラメータ推定結果

説明変数	パラメータ値	t 値
一般化費用	-4.8E-04	-15.84
歴史的町並み指標	7.5E-02	4.28
WEB 検索ヒット件数	1.0E-03	31.83
リピートの有無	-4.4E-01	-3.38
Log likelihood	5.9E+02	
Schwarz B. I. C.	-5.7E+02	
的中率	89.74%	

パラメータ推定より採用したモデルでは、各説明変数について有意なパラメータ推定結果を得ることができた。観光地選択には、対象地域までの所要時間や所要費用に加え、町並みの景観形成、対象地域の情報量、歴史的町並みへの訪問経験・回数などが影響していると言える。

5. シミュレーション

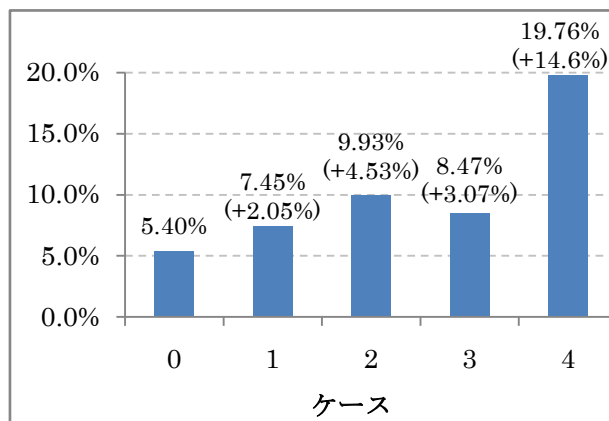
現状では、川越市の選択率（87.77%）が他の2地域（栃木5.40% 佐原6.83%）に比べ圧倒的に高い。そこで、栃木市の選択率を向上させる方策を検討する。

シミュレーションのケースとして、居住地域から栃木市までの一般化費用が20%減少したケース、栃木市の蔵の町並み内における自動車の乗入れ全面禁止及び道路の全面石畳化をさせるケース、インターネット検索によるヒット件数を3割増させるケース、これら3つの方策をすべて行ったケース、の4つのケースを検討する。まとめたものを表-2に示す。

表-2 シミュレーションのケース

	一般化費用 20%減	交通規制 及び 道路石畳化	WEB ヒット数 30%増
ケース0	×	×	×
ケース1	○	×	×
ケース2	×	○	×
ケース3	×	×	○
ケース4	○	○	○

シミュレーション結果を図-2に示す。



注) () 内の数値はケース0からの増減。

図-2 栃木市選択率のシミュレーション結果

6. まとめと今後の課題

本研究では、川越市、栃木市、香取市佐原それぞれの歴史的町並み地区において、観光者のアンケートを実施した。各観光者の来訪地を被説明変数とし、観光地選択モデル構築を行った。

モデルのパラメータ推定結果より、観光客が観光地を選択するには、対象地域までの所要時間、所要費用はもちろんだが町並みの景観形成、情報量、歴史的町並みへの訪問経験の有無などが影響していることが示された。

シミュレーション結果より、蔵の町並み内の交通規制及び、道路の石畳化を実施することが栃木市の観光客を増加させるために最も有効的な政策と言える。

今回のアンケートでは、曜日別や月別、イベント、ツアー客等のアンケートデータを得ることができなかった。定期的にアンケート調査を実施することでそれらを補うことができると思われる。また、各都道府県からの来訪者数等の詳細なデータを収集することにより、より正確な観光地選択の予測が可能となると考えられる。また、今回のモデルでは、観光地選択率の変化のみを検討したが実際には、各種方策は3地域の観光需要全体の底上げにも寄与することが期待される。歴史的町並みへの観光需要の変化も含む予測が可能なモデル構築が今後の課題である。

参考文献

- 1) 青柳裕樹・中村準 (2009) : 歴史的町並み景観が観光需要に及ぼす影響、2008年度千葉工業大学卒業論文
- 2) 川越市 (2009) : 川越市観光アンケート調査報告書
- 3) 溝上章志・森杉壽芳・藤田素弘 (1992) : 観光地域魅力度と観光周遊行動のモデルに関する研究、第27回日本都市計画学会学術研究論文集、No. 87、pp. 517-522
- 4) 石見利勝・安居信之 (1990) : 観光地のイメージにもとづく観光地選択行動、第25回日本都市計画学会学術研究論文集、No. 50、pp. 295-300